

(1) 報告事項① 会津美里町地域公共交通網形成計画に係る令和4年度の取組評価について

【資料1】

方針	数値指標	目標値の設定根拠	目標値設定の考え方	単位	目標値(R7)	計画書記載現状値(H29)	令和3年度実績値	令和4年度実績値	評価取組	【参考】現状値の算出方法	備考
基本方針① 町民の生活と交流を支える地域公共交通の構築	路線バス利用者数	路線バスの利用者数から、町民の日常生活に必要な移動手段が維持・確保されているかを評価する。	現状維持	人/日	844	844	596	547	・デマンド交通 目標値には到達しなかったが、令和3年度と比較して利用者が増加している。理由としては、AI配車システム導入による時刻表方式を撤廃したことによる利便性の向上が考えられる。今後は、町外医療施設への運行等、利用者の需要に応じた運用を検討し、利用者数の増加を図る。また、教育機関での課外授業での利用を促すなど、さらなる利用者層の拡大を図る。 ・路線バス 引き続きこども園児向けのバス乗り方教室や出前講座等を開催し、バスの利用促進を図る。	令和4年度5月、8月、10月、3月に実施した乗降調査結果（会津乗合自動車(株)提供)の平均	
	美里あいあいタクシーの利用者数	地域内交通の利用者数から町民の移動ニーズに即しているかを評価する。	増加	人/年	28,000	24,954	22,235	23,411		平日利用者数：19,880人 休日利用者数：3,531人	
基本方針② 利用者ニーズに合わせた便利で快適な公共交通の構築	ユニバーサルデザイン車両の導入率	利用しやすい環境づくりが図られているかを評価する。	増加	%	100	60	82.1	75	各公共交通機関の接続強化を図るため、デマンド交通については、令和4年11月から、希望時間に応じた予約方法を可能にし、他公共交通機関への接続強化を図ったが、令和3年度に比べて交通拠点における乗降者数は横ばい状態である。	美里あいあいタクシー：車両数6台、うちUD車両数3台（R3 6台のうち3台UD） 路線バス：美里町内運行車両数26台、うちUD車両数21台（R3 22台のうち20台UD） 合計：美里町内運行車両数32台、うちUD車両数24台 = 75%	
	交通拠点における乗り継ぎ環境の整備箇所数	乗り継ぎ拠点の整備状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	カ所	8	3	6	6		①じげんプラザ ②本郷庁舎 ③新鶴庁舎 ④情報センター「まっぺらん処」 ⑤高田インフォメーションセンター ⑥本郷インフォメーションセンター	R2.10.1～本郷庁舎、新鶴庁舎へ路線バスの乗り入れ開始
	交通拠点における乗降者数	乗り継ぎ拠点の利用状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	人/日	50	39	27	28		・路線バス乗降調査結果及び美里あいあいタクシーデータベースから算出 ・算出日は乗降調査に近い日付で算出 ・主要な交通拠点（じげんプラザ、情報センター「まっぺらん処」、本郷庁舎、新鶴庁舎、高田インフォメーションセンター、本郷インフォメーションセンター）における路線バス及び美里あいあいタクシーの乗降者数	
基本方針③ まちづくりと連動した地域公共交通の構築	多様な分野・主体と連携した利用促進の取り組み件数	多様な主体と連携した利用促進策の取り組みが展開されているかを評価する。	増加	件/年	3	1	4	12	例年教育分野との連携により、町内4こども園の園児に向けてバスの乗り方教室及びギャラリーバスを開催し、バスの利用促進を図っている。また、令和4年度11月からは、デマンド交通のアプリ予約が可能となったため、情報分野と連携し、スマートフォンの使い方教室等を併せてデマンド交通予約アプリの使い方教室を開催した。引き続き、教育分野や情報分野と連携し、町内公共交通の利用促進を図る。	教育分野との連携により、町内4つのこども園にて路線バスの乗り方教室を実施し、路線バスの利用促進を図った（4件）。 情報分野との連携により、スマホ教室にてデマンドタクシー予約アプリの使い方説明会を実施し、予約アプリを利用したデマンド交通の利用促進を図った（7件）。 広報あいつみさと12月号にデマンド交通特集記事を掲載することにより、デマンド交通の利用促進を図った（1件）。	
基本方針④ 将来的に持続可能な地域公共交通の構築	公共交通の運行に関する町負担額の維持	持続可能な公共交通網が形成されているかを評価する。	現状維持	千円/年	26,272	26,272	44,096	53,008	・公共交通の運行に関する町負担額については、令和3年度と比較して増加し、目標値を大幅に上回っている。町の負担額を減少させるため、引き続き町内公共交通の利用を促進するための施策（出前講座、バス乗り方教室）の展開やデマンド交通の利便性向上に向けた取組を行う。 【増額の要因】 デマンド交通 →利用者の増により収入が上がっているものの、タクシー借上げ料および人件費の増額、システムランニングコストの増額、運行体系の変更に伴う広告物の作成費が発生したため、町負担額が増加している。 路線バス →燃料費の高騰により、町負担額が増加している。 ・公共交通主体の利用促進の取り組み件数については、デマンド交通アプリ予約の導入による説明会や情報発信、只見線全線再開に向けた取組により増加した。	デマンド交通：32,117,588円（R3 26,760,012円） 路線バス：20,891,291円（R3 17,336,277円）	
	公共交通主体の利用促進の取り組み件数	多様な主体の連携・協働を取り組み内容から評価する。	増加	件/年	10	5	7	23		①路線バス乗り方教室の実施（認定こども園ひかり、認定こども園きぼう、本郷こども園、新鶴こども園）計4回 ②ギャラリーバスの運行（高田線、本郷線、新鶴線）計6回 ※夏季、冬季にそれぞれの路線で1回ずつ実施。 ③デマンド交通予約専用アプリ使い方説明会 計7回 ※情報部主催のスマホ教室内で併せて実施。 ④出前講座の実施 計1回 ⑤情報発信 広報紙デマンド交通特集記事掲載、YouTubeによるデマンド予約アプリ使い方配信、町公式LINEによるデマンド予約アプリ周知、只見線利活用促進 計4回 ⑥只見線全線再開を記念したおもてなし 計1回	